

ウスバシロチョウ

Parnassius glacialis



種名

分類	アゲハチョウ科												
形態	前翅長 26～38mm。白色半透明の翅をもつ。飛んでいるときには、シロチョウ科とまぎらわしい。次種とは近縁で、北海道では混棲することがある。本種は雌雄とも前胸部が橙色、腹部下面の毛も同色。♂はより胴体の毛が少なく、交尾をすませた♀は、腹部に袋状の交尾付属物をつける。日本海側の多雪地域では、地色が黒色となるウスバクロチョウになるものがあり、変異が大きい。												
分布	北海道(中部以南、奥尻島を含む)、本州(佐渡島を含む)、四国。												
出現期	年1回の発生、早いところでは4月下旬から羽化を始め、おもに5月が最盛期。寒冷地では7～8月にも見られる。卵(卵内初齢幼虫)で越冬する。												
生態	あまりはばたかず、滑空する。林縁の草地、畑、休耕田に棲み、ネギやアザミ類などで吸蜜する。卵は食草付近の枯れ枝や、小石に数個ずつ産まれる。												
食樹	ケシ科のムラサキケマン、ヤマエンゴサク、エゾエンゴサクなど。												
幼虫 (幼生期)	体長40mm。黒褐色で、背面に2列の白色縦縞があり、その中に赤色斑をもつ。まゆの中で蛹化する。												
出現時期	(月)	-	-	-	-	5	6	7	8	-	-	-	-
その他													
参考文献：検索入門 渡辺康之著 チョウ													